

平成20年度 水路測量技術検定試験問題(その117)

港湾2級1次試験(平成20年6月7日)

- 試験時間 30分 -

水深測量

問1 次の文は測量船の誘導作業について述べたものです。正しいものに  を、間違っているものには  を付けなさい。

- 1 光学的測位による場合の海上位置の決定は2線以上の位置の線の交会によるものとしその交角は20度以上とする。
- 2 直線誘導の方向(測深線の方向)を設定するための基準目標は、原則として誘導距離より遠距離にあるものを選定する。
- 3 基準目標を変更した場合、または誘導点列が曲折する場合はその境界となる測深線を十分重複させなければならない。
- 4 2目標の見通し線をカットに利用するときは、前標が船に近く、前後標の間隔が広いほど精度が悪くなる。
- 5 誘導距離、または誘導角は、当該測深線の誘導開始時及び終了時に点検する。

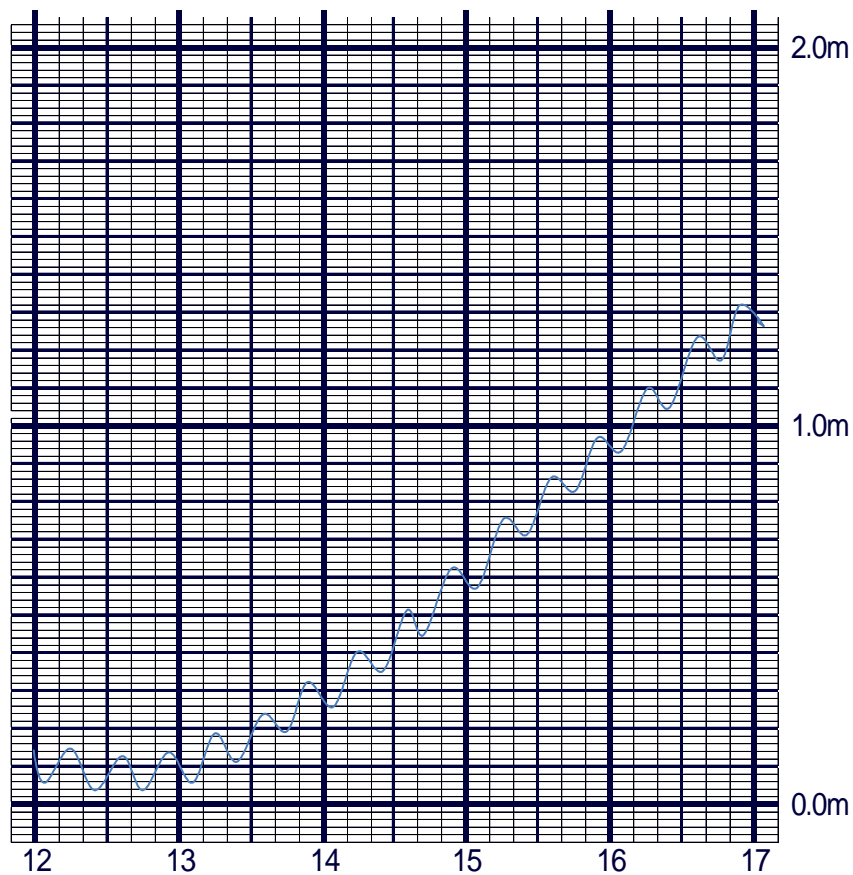
問2 次の文は水深改正について述べたものです。適当な語句を選んで( )の中に番号を記入しなさい。

- 1 バーチェックの整理の結果、パーセントスケールは0.0%、実効発振位置は発振線上0.2メートルであった。送受波器の喫水量が0.8メートル、潮高改正量が1.6メートルの時の実水深読み取り基準線は、発振線に対して( )の位置関係となる。
- 2 測深区域における潮汐副振動の振幅が( )メートル以上ある場合の潮高改正量は、原則として、その副振動の示す値を用いるものとする。
- 3 バーチェックによる読み取りスケールの選定はバーの記録深度が、すべて±( )メートル以内で合致するものを選定する。

下0.6 m	上0.6 m	下0.8 m	0.2	0.4
0.01	0.05			

問3 音響測深機で取得した水深（アナログ記録）から実水深を得るため必要な補正を4つ記述しなさい。

問4 水深測量時に下図のような験潮曲線を得た。測深値に対する潮高改正をするため、13時30分から14時30分まで10分間隔で曲線記録を読み取って、下の験潮簿の空欄に記入しなさい。ただし、曲線を平滑化するものとする。なお、当験潮所の観測基準面は0.00メートル、平均水面は1.20メートル、Z<sub>0</sub>は0.90メートルで記録時における時計の遅れ、進みはなく、記録移動監視の基準線は不動とする。



DL= (m)		読取値(m)	改正値(m)
時	分		
13	30		
13	40		
13	50		
14	00		
14	10		
14	20		
14	30		